



弘前医療福祉大学短期大学部紀要

*Journal of Hirosaki University
of
Health and Welfare Junior College*

第4巻 第1号

2016年3月発行

弘前医療福祉大短期大学部紀要
J. Hirosaki Univ. Health Welf. Junior College.

弘前医療福祉大学短期大学部紀要編集委員会

目 次

[原 著] 救急救命学科学学生の体組成、体力テストの特性 千葉 智博、山田 礼仁	1
[原 著] 在宅介護支援センターにおけるケアマネジメントのあり方— —高齢者虐待問題とケアマネジメント機能を中心に— 福士 尚葵、戸来 睦雄、大和田 猛	11
[研究ノート] 野外キャンプ活動における食育教育効果に関する考察 牛田 泰正	27
[研究ノート] 地域包括支援センターに所属している社会福祉士の地域支援ネットワーク構築に関する認識比較 —運営主体の違い（直営型、委託型）に焦点をあてて— 工藤 雄行、大沼 由香、寺田富二子、中村 直樹、小池 妙子、富田 恵	35
[研究ノート] 在宅認知症者に対する男性家族介護者支援の方向性 —フォーマル、インフォーマルサポートの側面からの検討— 工藤 雄行、小池 妙子、寺田富二子、大沼 由香、東谷 康生、平川美和子、 高 祐子	43
[特 集] 弘前医療福祉大学短期大学部 平成27年度 公開講座実施報告 あなたにも救える命がある ～AEDを含む心肺蘇生法と応急手当～ 立岡 伸章	57
「認知症になっても大丈夫」 ～安心して暮らせる町づくり～ 戸来 睦雄	61
昭和のはじめの西洋料理を再現 葛西 静男	65
紀要規程・投稿要項	67
編集後記	
紀要編集委員会委員	

弘前医療福祉大学短期大学部紀要投稿規定

2015年5月27日改正

- 1 本紀要への投稿者は、弘前医療福祉大学短期大学部の教員及び非常勤講師とする（共同執筆者に卒業生を含むことは差し支えない）。
なお、この他、弘前医療福祉大学の教員及び非常勤講師の寄稿及び依頼原稿も含むものとする。
- 2 原稿は、未発表のもので、① 原著論文、② 事例研究・事例報告、③ 実践報告・研究報告、④ 研究ノート、⑤ 最近における介護福祉・食育福祉・救急救命に関する内外の知見や調査レポート・資料等、⑥ 公開講座他、本学行事にかかわる報告、以上の種類を明示した上で投稿するものとする。
- 3 投稿原稿は、和文または欧文とし、本原稿の他にコピー2部とCDまたはUSBメモリを添付する。提出に際しては、図・表・写真・本文・要旨の内訳を明記する。
- 4 投稿予定の原稿のうち、人を対象とする(研究に関する)ものは、構想の段階で研究倫理委員会に申請書を提出し、審査の承認を受けた上で投稿しなければならない。
- 5 投稿原稿は全て受理するが、原則として一人一編とする。本文の長さ、図・表・写真の大きさ等、編集上不都合が生じる場合、または印刷体裁が整わない場合には、変更を求めることがある。
- 6 投稿原稿は、研究倫理委員会の倫理審査を経て承認された旨を文中に明記して、紀要編集委員会委員長に提出するものとする。
投稿の締め切りは毎年12月20日頃とし、相当の遅滞があった場合は、紀要編集委員会での協議の上、次号発刊の紀要において対処する。
- 7 校正は二校までは投稿者が行う。初稿段階における大幅な変更は原則的に認めない。
また、二校における内容にわたる修正も認めない。
- 8 紀要編集委員会に提出される原稿の中で、複数名の共同研究者(連名)においては必ず、共同研究者全てについて役割分担、または、研究作業のどの部分や箇所において責任を果たしたのか、文中に明示しなければならない。
- 9 投稿する原稿については、「投稿論文原稿提出書」を必ず添付すること。紀要編集委員会では、投稿原稿の提出者に対し「受領書」を交付する。
- 10 紀要編集委員会では、投稿原稿の締め切り後、速やかに委員会を開催し、投稿された原稿の査読について協議し、査読者の分担、役割等を決定する。査読者は簡易な「投稿論文査読表」をもとに査読し、定められた期限までにその結果を紀要編集委員会に提出する。紀要編集委員会では、この結果を原稿提出者に伝え、必要に応じて適宜、修正、訂正してもらうものとする。
- 11 投稿原稿の抜き刷りの増刷を希望する者は、あらかじめ申し出るものとする。

弘前医療福祉大学短期大学部紀要執筆要項

- 1 投稿原稿はA4版、10ポイントで1枚につき40字（英字・数字は半角）×40行横書きとする。

原著論文、事例研究・事例報告などの研究ノートは10枚（16000字）以内とし、最近における介護福祉・食育福祉に関する内外の知見や調査レポートなどの資料は5枚（8000字）以内とする。但し、図表1枚は800字（半数）分に数えるものとする。

欧文原稿は、A4版の用紙を使って用紙の左右2.5~3.0cm、上下3.5~4.0cmの余白をとり、ダブルスペースで1行約60打字25行のタイプライト（用紙1枚に約300words入ることになる）をしたものとする。

欧文は必ずnative speakerによる校閲を受けたものであること。

- 2 図・表等は、各々1枚の用紙に図1または表1と書く。表題・図・表・写真は別葉とし、本文中に入れない。掲載箇所は、本文原稿の右端欄外に赤字で図・表・写真の番号をもって指定する。

図表原稿の大きさは、A4版を越えないことを原則とする。折りこみについてはできるだけ避けるようにする。

- 3 和文表題には、欧文表題・著者名の英文を付す。欧文の場合には、表題・著者名・所属の順とする。
- 4 本文とは別葉に、400字以内の和文要旨とキーワード3~5語を記す。欧文要旨を付す場合は300語以内とし、keywords 3~5語を記す。
- 5 注は、本文中にその位置をアラビア数字で（ ）中に指示し、注記は、各論文の形式に適した位置に置く。なお、注の活字は本文の活字よりもポイントを下げてもよい。
- 6 引用文献の記載は、ポイントを下げ、それぞれの学会誌等に順ずる。
- 7 他の出版物から図・表等の資料を引用転載する場合は、その資料が著者自身のものであっても、必ず出典引用する。

編 集 後 記

本号の作成手続きは、研究倫理委員会との連携作業がスムーズに進んだほか、業者への発注等も順調に行われた結果、お陰をもちまして比較的早期に完成し、皆さんにお届けすることができました。

今回掲載させて頂いた原著論文2編と研究ノート3編の計5編は、いずれも先生各位がそれぞれの専門分野において日々鋭意取り組まれている教育研究活動の中から生まれた貴重な結晶であり、その真摯な高い意欲と優れた研究業績に対して心から敬意を表します。有り難うございました。

各位には、各専門研究分野における貴重な成果を、今後とも本紀要へ積極的にご寄稿下さるよう、よろしくお願いを申し上げます。

弘前医療福祉大学短期大学部
紀要編集委員会

委員長 葛原 徹

副委員長 牛田 泰正

委員 工藤 雄行

委員 菅 世智子

委員 大和田 猛

Journal of Hirosaki University of Health and Welfare Junior College

弘前医療福祉大学短期大学部紀要

第4巻 第1号

平成28年3月15日発行

編集・発行 〒036-8102 弘前市小比内3-18-1
弘前医療福祉大学短期大学部内 紀要編集委員会
TEL：0172-27-1001

印刷所 〒036-8061 弘前市神田4-4-5
やまと印刷株式会社
TEL：0172-34-4111 FAX：0172-36-3299

Contents

[Original]

Body composition of the Department of Emergency Medical Technology students,
characteristic of the fitness test.

Tomohiro Chiba, Norihito Yamada 1

[Original]

Challenges Concerning the Practice of Care Management in Home-care Support Centers
—Focused on the Problem of Elderly Abuse and Care Management Functions

Naoki Fukushi, Mutuo Herai, Takeshi Owada 11

[Note]

A study on Eating Education Effect in the field of camp activities

Yasumasa Ushida 27

[Note]

Comparison of perceptions on community support network building of certified social workers affiliated with
integrated community support centers

— Focus on differences in managing bodies (directly managed, delegated type) —

Yuko Kudo, Yuka Ohnuma, Fujiko Terada, Naoki Nakamura, Taeko Koike, Megumi Tomita 35

[Note]

Supportive trends for male family caregivers of home care dementia patients

—Examining formal and informal aspects of support—

**Yuko Kudo, Taeko Koike, Fujiko Terada, Yuka Ohnuma, Yasuo Azumaya, Miwako Hirakawa,
Yuko Taka** 43

[Special Edition]

Hirosaki University of Health and Welfare Junior College 2015 Open Lecture Implementation Report 55